

1. 概要

- (1)実施日 平成25年4月13日(土)9:30~15:00 天候:晴れ
- (2)コース JR西宮名塩~北山トンネル~長尾山トンネル~温泉橋~JR武田尾駅 (約10km)
- (3)見所 武庫川溪谷(有馬層群)の六甲山系と異なる植生と桜の園「亦楽山荘」の概略説明
- (4)参加者 ビジター18名+会員24名=42名
- (5)配布資料 「観察コース MAP」と「武田尾溪谷と武田尾・名塩」説明資料

2. 準備+実施

- (1)下見 3月9日(世話人)、3月30日(1班)、4月7日(公開)の3回
- (2)説明方法 ビジター対応:1班(大橋)、2班(木下) 会員対応:3班(太田)



3. 観察

(1)写真付き解説

ヨコグラノキ、ヒトツバハギ、ケンポナシ、サツキ、ツメレンゲ、リンボク
ササバザクラ、キツネノカミソリ

(2)その他主な解説

マルバアオダモ、アケビ、キブシ、フユザンショウ、キササゲ、
カゴノキ、アブラチャン、ホソバタブ、クマノミズキ、カワラハンノキ、
オニグルミ、タチヤナギなど



4. 感想

- (1) ビジターを2班に分け、このコースを得意とする観察リーダーで対応。その後3班として会員班を設けたために、スムーズにビジター主体の観察会となった。
- (2) 早朝の淡路島地震で電車の乱れが大きかったにも関わらず参加者が多かった。
チラシの問合せ先に携帯電話番号を記載していたのでビジターからの対応が可能となった。

武庫川溪谷と武田尾・名塩 六甲山自然案内人の会 1班 大橋正規

武庫川は篠山市の愛宕山を源流とし、篠山市内で他の小河川と合流し、三田市～神戸市北区～宝塚市（一部右岸は西宮市）～西宮市（左岸は伊丹市・尼崎市）～瀬戸内海（大阪湾）にそそぐ総延長約70kmの2級河川です。その途中、武田尾から名塩までの間がかなり急峻な武庫川溪谷となっています。

武田尾付近の山地は「有馬層群」と言われる地層に属します。有馬層群は中生代白亜紀後期（約1億年前～約7000万年前）に火山活動によって地表にふきだしたマグマや火山灰が固まって出来た地層であり、溶岩が固まった流紋岩や火山灰が火砕流等で変質した溶結凝灰岩から出来ています。なお、マグマが地下でそのまま固まったのが六甲山地をつくっている花崗岩です。

なお、武田尾～名塩付近の地形は有馬層群で出来た山地の間を武庫川が流れ、侵食による深いV字形溪谷を形成しています。兩岸は堅い岩石で出来ており、露岩が多くみられます。

この地域特有の植生は、ヨコグラノキ、ガンピ、フエザンショウ、アブラチャン、イタヤカエデ、クマノミズキ、ヤマイバラ、カワラハンノキ、タチヤナギ、オニグルミ、ツルウメモドキ、ツルマサキ、ミツバウツギ、ヒトツバハギ、ホソバタブ、ケンボナシ、カゴノキ、ナナミノキ、リンボク、キハギ、イブキシモツケ、ヤブウツギ、キヨスミギボウシ、ハナヤクシソウ、ツメレンゲ・・・スミレモ等です。中でも「ヨコグラノキ」は武田尾を代表する樹木で、植物学者の故牧野富太郎博士が高知県の横倉山で発見し命名したことで有名です。この樹木は凝灰岩帯を好みこの武田尾の地層と良く合っているため、幼木も含め沢山自生しています。六甲山は花崗岩地帯ですので見かけません。

武庫川溪谷で特筆すべき植物はサツキやアオヤギバナ・ヤシヤゼンマイ等の「溪流沿い植物」です。溪流帯の岩上や割れ目に根を張り葉は洪水にも耐えるよう流線型に形態進化したものです。

JR福知山線の沿革

福知山線の発祥は、川辺馬車鉄道が1891年に開業させた尼ヶ崎～伊丹間の馬車鉄道である。のちに摂津鉄道と改称して1893年に馬車鉄道を蒸気動力の軽便鉄道として尼ヶ崎～池田間を開業させた。1899年（明治32年）には尼崎から福知山まで延伸し、1907年（明治40年）国有化された。1986年（昭和61年）尼崎～新三田までが複線電化され、生瀬駅から道場駅までの武庫川溪谷の線路は廃線敷となった。

水上勉の小説「名塩川」と「桜守」の舞台としても紹介されています。

① 名塩和紙＝名塩に紙漉き技術が伝わったのは、1600年頃といわれる。米作に向かない寒村、名塩村の東山弥右衛門という若者が越前（現福井県）へ出向き、苦心の末、越前の紙漉き技術を持ち帰り、さらに名塩でとれる泥土を混ぜて漉くという名塩特有の技法を開発した。その良質の紙は大いに珍重され、名塩は紙漉きの村として栄えた。当時、紙漉きのような生産技術は門外不出であり、他所者がそれを習得することは至難の業であった。水上勉が「名塩川」という小説を書いている。名塩和紙はこの地域で沢山採れたガンピとノリウツギが材料ですが今は和歌山産のガンピと北海道産のノリウツギを使っているとのこと。

② 武田尾には笹部新太郎博士（1887～1978）のサクラ演習林（亦楽山荘）が有り、私財をなげうって、サクラの研究・品種改良を行い日本中に広めた。博士が亡くなって暫くは荒れ果てていましたが、宝塚市に寄贈され今は「桜の園」として、市民やハイカーに開放されています。入り口から駅までの間にはササバザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラが植えられています。

博士と親交のあった水上勉が書いた「桜守」は昭和51年銀河テレビ小説で放映されました。

武田尾と言う地名は無く（駅＝左岸は宝塚市玉瀬字イズリハ＝右岸は西宮市塩瀬町名塩）昔、武田尾直蔵と言う豊臣方の落ち武者が温泉を発見し、温泉名として（駅名も）武田尾と呼ばれています。

武田尾・武庫川G 観察MAP

